

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2014.5.25 No. 197 連絡先 FAX 042-555-1911



福井県の大飯原発 再稼働差し止め 原発は人格権侵害 福井地裁

5月21日、住民189人が関西電力大飯原発3、4号機（同県おおい町）の再稼働差し止めを求めた訴訟で、福井地裁（樋口英明裁判長）は「運転してはならない」と言い渡しました。

2011年の東京電力福島第1原発事故後、原発の運転差し止めを命じた判決は初めてです。

樋口裁判長は、人の生命を基礎とする人格権をもっとも重視し、「これを超える価値を他に見いだすことはできない」と強調。そのうえで、住民らの人格権と電力の安定供給やコストの問題をてんびんにかけた関電側の議論を厳しく退けました。国民の運動を広げ「原発ゼロ」に。

厚木訴訟 自衛隊の夜間飛行を禁止するも 米軍は不問 横浜地裁

5月21日、米軍機や自衛隊機の爆音被害に苦しむ米海軍厚木基地（神奈川県大和市、綾瀬市）周辺住民6,993人が国を相手取り、飛行差し止めと損害賠償を求めた第4次厚木爆音訴訟で、横浜地裁（佐村浩之裁判長）は、自衛隊機の夜間（午後10時～翌日午前6時）の飛行差し止めを命じる判決を出しました。佐村裁判長は「原告らが受けている睡眠妨害の被害は相当深刻」としましたが、米軍機の飛行差し止めについては、原告の訴えを退けました。

判決はまた、爆音被害は違法であるとして、総額約70億円の損害賠償を認めました。

米軍無人偵察機・グローバルホーク 三沢に 国内初配備

5月24日午前6時30分頃、米軍の無人偵察機・RQ-4 グローバルホークが青森県の三沢基地に飛来しました。28日にはもう1機飛来します。アメリカ政府が伝えたところによると、本拠地であるグアムの台風シーズンが終わる10月まで、三沢基地をベースに、北朝鮮や中国の軍事動向などの情報収集を行います。（右写真：米軍三沢基地 HP より）



グローバルホークは、主翼幅約40メートル、全長14.5メートルの大型無人偵察機です。攻撃能力はありません。地上からの遠隔操作で飛行するグローバルホークは、米軍がグアムのアンダーセン空軍基地で運用中です。イラク戦争で実戦に投入されています。防衛省は来年度以降、無人偵察機を購入する方針です。米軍には無人攻撃機もあり、国連で批判を浴びています。

横田基地所属のC130H バリカタンで空中投下

バリカタンとは、米国とフィリピンが合同で実施している軍事演習。2000年以降、毎年3月～4月に実施されているようです。

米比合同演習「バリカタン2012」には、自衛隊の統合幕僚監部から3名が派遣されましたが、日本の参加は初。「バリカタン2013」には、沖縄からオスプレイ4機が参加しています。



「バリカタン2014」は5月に、米軍2500人とフィリピン軍3000人が参加。横田基地のC-130H輸送機も物資のパラシュート降下等で参加しています。（写真：太平洋軍 HP より）

在日米軍基地 米軍の運用に歯止めなし これでもいいのか (No. 167 の裏面)

「市民の安全・安心を守れるのか」と配備に抗議する市民の声を聞こうともせず、無人機は飛来しました。横田基地でも「米軍の運用」ということで、米軍機が日々、飛来します。

5月24日は土曜日なのに、C-146A、KC-135T、KC-10A (TRAVIS)、C-17A (AK) の出入りがありました。

5月23日は、RC-135S やチャーター機の OMNI (右写真) が着陸しました。C-17A (TRAVIS) (右2番目の写真) が離陸し、C-17A (CHARLESTON) が着陸しました。

5月18日、ワシントン州ウィドビーアイランド海軍基地所属の対潜哨戒機 P-3C (右3番目の写真) がローアプローチしました。三沢基地にローテーション配備されているもののようです。また、KC-10A が朝出ていき、13時すぎに、韓国から帰ってきました。

5月15日、米空軍三沢基地所属の F-16CM が6機、16時30分前後に着陸。翌日の5月16日、10時すぎに離陸しました。

これらの飛来が何のためで、いつ離陸するか知らされません。日米安保条約をなくして、独立した日本に変えなければ。

米兵が軍服で 福生の街を歩き 食堂に入る

昼食時、福生の街を、米兵が軍服で歩き、食堂に入っていました。この光景を見たAさんはびっくりしていました。JR福生駅前の路上でも、ショッピングでも、食堂でも、軍服姿を見かけます。

日常的に戦争のための訓練をしている軍服で、街中を軍事色に染めていくのは止めてほしい。フェンスの外にでるなら、私服で！



横田基地の航空戦術教導団 司令部は60人 全体で1000人の大所帯

2014年度の防衛予算には、航空戦術教導団の新編が明記されています。航空戦術教導団の下には、飛行教導群、高射教導群、電子作戦群、航空支援隊がおかれます。

飛行教導群は、宮崎県の新田原基地の飛行教導隊を改編。

ウィキペディアによると「飛行教導隊とは航空自衛隊における仮想敵機部隊（いわゆるアグレッサー部隊）のことである。要撃機パイロットの技量向上などを目的とし、航空自衛隊の戦闘機パイロットの中でも特に傑出した戦闘技量を持つパイロットが配属されている。主に各戦闘機部隊について巡回指導を行っている。」そうです。産経新聞 (5.11) に、飛行教導隊にはアグレッサー（侵略者）と呼ばれるパイロット集団がいて、F-15 戦闘機を使って、日本と仮想敵国に別れて空中格闘戦訓練（ドッグファイト）を行っているという記事がありました。

高射教導群は、静岡県浜松基地の高射教導隊を改編。地对空誘導弾部隊の戦技の向上研究にあたります。攻撃と防御に分かれ実戦に即した作戦構想を本格的に研究します。

電子作戦群は、埼玉県入間基地の電子戦支援隊を改編。敵の地上レーダーや地对空ミサイルを無力化するための「電子戦」の能力、技術向上や態勢強化に向けて研究します。

航空支援隊は、青森県三沢基地の航空支援隊を改編。爆撃誘導員を育成、訓練します。